

ている。被曝労働者を限りなく再生産しながらの私たちの豊かさは、本当の安穩あんのんではない、そういうことを考えながら社会に関わる仏教、その代表者がベトナムのティックナットハンというお坊さんです。ベトナム戦争の時に、南北ベトナム政権に戦争をやめるよう訴えた方。この人が提唱する仏教がソーシャル・エンゲージドブディズム（社会参加型仏教）。私の存在は、縁起として同朋としての存在だと気づくのが彼の座禪ざぜん。エンゲイジは関わるという意味と参加するという意味があります。

社会を切り離して仏教を学ぶのではなく、社会との関わりの中で仏教

学んでゆく。真宗的にいえばだれもが阿弥陀さまに願われている、つかみとられている存在なんだと気づいてゆくことだと思います。

質疑応答

Q 高齢化社会ですが、子供らは離ればなれ。宗教としてどう関わりますか。

A お寺が避難場所になるというのもひとつだと思います。そして、家族に限らず、地域ぐるみで支える、地域の一人ひとりが、「私たちのおばあちゃんだ」という人間観を形成する、そのお手伝いをするのも宗教の役割ではないでしょうか。

圓石先生のワンポイントアドバイス



真宗門徒が多い地域は、病んでも祈禱きとう、まじない、お札に頼らない伝統があり、町にお医者さんや薬屋さんが多いのが特徴です。

昨年三月と十月、蔵本通支坊しぼうと長ノ木本坊の法座で、圓石正武（呉市郷町圓石医院院長）先生にお話をいただき、健康ワンポイントアドバイスをいただきました。二月は血圧、十月はインフルENZA。インフルENZA注射は高価だが、一回もせねばならぬのか、私たちが普段感じている素朴な疑問にお答えいただきました。



去る9月13～15日、京都西本願寺親鸞聖人750回会の法要に 安芸南組（近隣60ヶ寺）として、39名が西教寺から団体参拝しました。法要後帰敬式（法名をいただく式）、翌日、大谷本廟に参拝して、聖人ご修行の地比叡山に参詣。鳥取県三朝温泉泊、妙好人足利源左（みょうこうにん・あしかがげんざ）さんのお寺願正寺にお参りました。